哲学者Ⅰ

イオニア学徒の哲学*　　第 38 巻 P216

《アナクシマンドロス（紀元前 610 － 547 年）は，人間を魚から生じたものだとした》・(213)

＊　**イオニア学派**はミレトス学派とも呼ばれる（それは小アジア沿岸の古代世界の商業と文化との中心地である都市ミレトスに由来する）．この学派はギリシア哲学史上もっとも早い自然発生的な唯物論学派である（エンゲルス．《自然弁証法》，国民文庫版，第２冊，10 － 11 ページを見よ）．

ピュタゴラスおよびピュタゴラス学徒**　　第 38 巻 P216 ～ 217

……《中心にピュタゴラス学徒は火を置いた，地球は，しかし，一つの星として，この中心体のまわりを円をえがいてまわっている，とした》……しかし彼らにあって

はこの〔中心の〕火は太陽ではなかった……

＊＊**ピュタゴラス哲学**（紀元前６－４世紀）は，数をあらゆる事物の本質と見なす観念論哲学．この名称は，南イタリアの町クロトンに貴族政治の支配のためにたたかう哲学的=宗教的=政治的団体をつくったピュタゴラスの名まえにちなんでいる． 10 という数を，ピュタゴラス学徒は，もろもろの数のあらゆる本性を網羅する，もっとも完全な数として神聖視した．

ソフィストたちの哲学*　　第38巻　Ｐ 239

＊　**ソフィストたち**（ギリシア語のソフィストは知者の意）は職業哲学者たち，哲学と雄弁との教師たちの名称であった（紀元前５世紀の後半から）．ソフィストたちは単一の学派をなしてはいなかった．ソフィストたちに共通の，もっともいちじるしい特徴は，人間のすべての表象，倫理上の規範や評価を相対的なものと見る確信である．この確信はプロタゴラスがその有名な命題《人間は万物の尺度である．有るものどもについては，有るということの，有らぬものどもについては有らぬということの》のなかで表現した．紀元前４世紀の前半にソフィスト論法は堕落し，退化して無効果に論理的概念をもてあそんだ．

ヘラクレイトス（ほぼ紀元前 530 ～ 470 年）　　第 38 巻 P594 人名索引

古代ギリシアのすぐれた哲学者、弁証法の創始者のひとり、自然発生的唯物論者

ソクラテス（紀元前 470 ～ 399 年）

古代ギリシャの観念論哲学者、奴隷主＝貴族の思想的代表者、古代唯物論の敵。古代的な意味における弁証法（相手の意見のなかにある矛盾を発見する方法によって真理に到達する技術）を完成させた最初の哲学者のひとり。ソクラテスのことは、主として彼の弟子、プラトンの著作によって知られている。彼は、アテネの民主主義にたいする敵対的態度によって死刑を宣告され、みずから毒盃をあおいで死んだ。

デモクリトス（アブデラの）（紀元前 460 ～ 370 年ごろ）

古代ギリシャの偉大な唯物論哲学者。原子論の創始者。「ギリシャ人」のあいだにおける最初の百科全書的頭脳」（マルクス、エンゲルス）の持主。デモクリトスによれば、客観的に存在するものは、原子から構成される物質と、原子がそのなかで運動する永遠の空間だけである。彼の唯物論哲学は宗教的観念、彼岸の世界と霊魂の不滅への信仰をうちくだいた。彼は、生物学、医学、言語学、文法、美学、数学、等々を研究し、また奴隷制的民主主義の支持者であった。

プラトン（紀元前 427 ～ 347 年）　第 14 巻 P467 人名訳注

古代ギリシャの哲学者、ソクラテスの弟子、哲学における客観的観念論の創始者のひとり。反動的アテネ貴族の思想的代表者。永久不変のイデアの世界こそ「真実在」であり、可変的な一時的の感性的事物の世界はイデアの世界の影にすぎないと考えた。レーニンは、プラトンの観念論的系統にデモクリトスの唯物論的系統を対置させた。プラトンの見解は多くの反科学的・神秘主義的・観念論的傾向の源となった。現代の反動的ブルジョア哲学もまた、これらの傾向をよりどころとしている。プラトンは『国家』と『法律』を書き、そこで独特の貴族的社会主義のユートピアを発展させ、貴族の財産共有を提唱した。

ガッサンディ、ピエール（1592 ～ 1655 年）　第 38 巻 P579 人名索引

フランスのすぐれた唯物論哲学者、エピクロスの原子論および倫理学の思想を発展させた。また、天文学、数学、力学、科学史の領域の業績でも有名。

スピノザ、バルフ（ベネディクト）（1632 ～ 1677 年）　第 38 巻 P584 人名索引

オランダのすぐれた唯物論哲学者、理性主義者、無神論者。

デカルト、ルネ（1596 ～ 1690 年）

すぐれたフランスの哲学者、物理学者、数学者、生理学者。物理学では宇宙の物資性と無限性の命題、物質と運動の不滅性の命題を擁護した。スコラ哲学との闘争では無生物だけでなく生物の説明においても機械論的・数学的原理を適用した。認識論では合理主義の立場に立ち、認識の演繹的方法を完成した。デカルトの極端な機械論は、物質と意識とのするどい対置、二元的世界観を生みだした。デカルトは、また解析幾何学の基礎をきずいた。主著――『第一哲学についての省察』（1641 年）、『哲学原理』（1644 年）。

アイザック・ニュートン（1643 ～ 1727 年）

イギリスの天才的な物理学者、機械技師、天文学者、数学者。1665 年ケンブリッジ大学卒業、1669 ～ 1701 年同校で光学および数学を講義、1672 年ロンドン王立協会の会員にえらばれ、1703 年同会総裁。造幣局長としてイギリス貨幣の改鋳を行った。萬有引力の法則の確立、理論力学の研鑽、無限小の計算の発明、および物理学と光学の領域におけるいくたの発明と発見がニュートンの名とむすびついている。はじめ機械的唯物論者であったが、晩年、神秘主義に陥った。主著――『自然哲学の数学的原理』（1687 年）、『光学』（1704 年）。

バークレ、ジョージ（1684 ～ 1753 年）　第 38 巻 P589 人名索引

イギリスの反動哲学者、イギリス教会の監督、主観的観念論者。

ヒューム、デイヴィッド（1711 ～ 1776 年）　第 38 巻 P590 人名索引

イギリスのブルジョア哲学者、イギリス教会の監督、主観的観念論者、不可知論者。歴史家で経済学者。

ドルバック、ポール・アンリ（1723 ～ 1789 年）　第 38 巻 P588 人名索引

フランスのすぐれた哲学者、形而上学的唯物論の代表者、無神論者、18 世紀フランスの革命的ブルジョアジーの思想的代表者のひとり。

カント、イマヌエル（1724 ～ 1804 年）　第 38 巻 P580 人名索引

ドイツのすぐれた哲学者、ドイツ古典哲学の祖、主観的観念論者で不可知論者。客観的に存在する《物自体》をみとめることにあらわれていた唯物論の諸要素と、観念論との矛盾・結合が、カントの認識論に特徴的である。

ヘーゲル、ゲオルグ・ヴィルヘルム・フリートリヒ（1770 ～ 1831 年）

ドイツの大哲学者、弁証法的客観的観念論者；ドイツ古典哲学の最大の代表者。ヘーゲルの歴史的功績は、弁証法的唯物論の理論的源泉の一つとなった観念論的弁証法を全面的に仕上げたことである。　第 38 巻 P593 人名索引

フォイエルバッハ、ルートヴィヒ・アンドレアス（1804 ～ 1872 年）

ドイツのすぐれた唯物論哲学者で無神論者。フォイエルバッハの唯物論は制限された直感的性格をもっていたにもかかわらず、マルクス主義哲学の理論的源泉のひとつとなった。

第 38 巻 P591 人名索引